

全人工膝関節形成術後に二期的追加手術を必要とした症例

池田 真琴¹⁾ 湯朝 友基²⁾ 張 敬範²⁾ 江本 玄²⁾

1)江本ニーアンドスポーツクリニック リハビリテーション部

2)江本ニーアンドスポーツクリニック 整形外科

『はじめに』

全人工膝関節形成術（以下 TKA）の症例数はますます増加している一方、術後の合併症の報告も増えつつある。術後の合併症としては、感染、loosening、骨折などがあげられる。

今回、当院にて TKA 施行後に二期的追加手術を必要とした症例について調査した。

『対象・方法』

2006年5月から2019年8月までに当院にて初回TKAを施行した2654例のうち、その後二期的追加手術を施行した症例47例を対象とした。

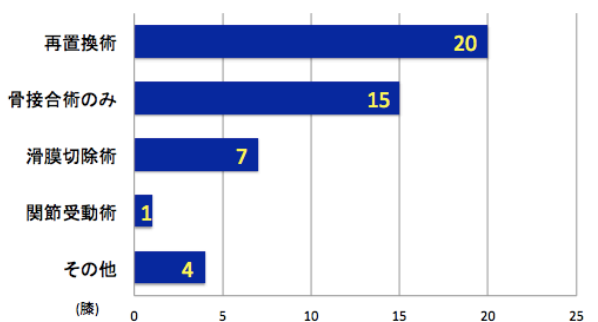
検討項目は、二期的追加手術の内訳、要因、術後経過とした。

『結果』

二期的追加手術は、2654膝中、47膝に施行し、全体の1.77%に施行。

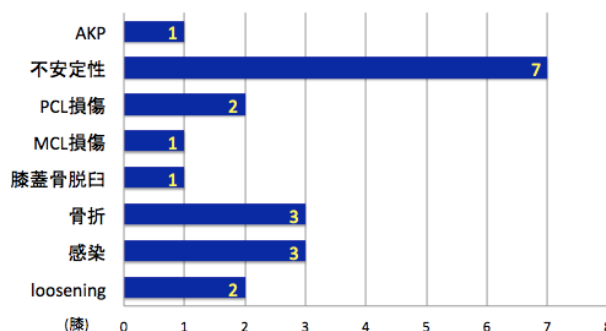
平均年齢は、74.3歳（57-84）、女性33膝、男性14膝。

二期的追加手術 内訳

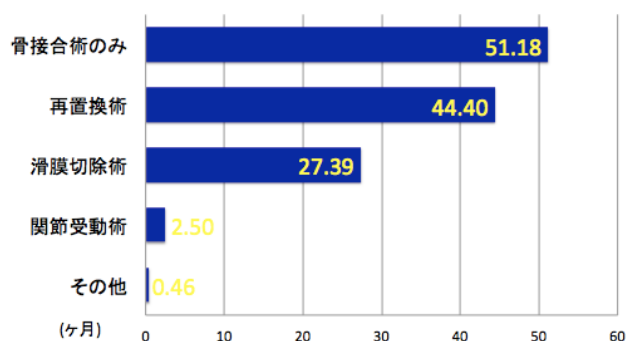


	全体	再置換術	骨接合術	滑膜切除術	関節受動術	その他
(膝)	2654	47	15	7	1	4
	1.77%	0.75%	0.56%	0.26%	0.03%	0.15%

再置換例 要因

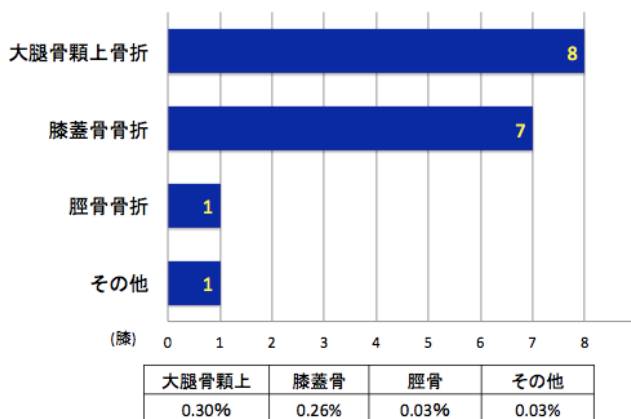


二期的追加手術までの期間



全体平均39.4ヶ月(0.35ヶ月～144ヶ月)

TKA周囲骨折



『考察』

○術後感染について

Voigt J ら：初回 TKA 後の感染率は 0.5～3.0%

(Antimicrobial Agents Chemotherapy.2015;59:6696-6707)

ARAKAKI ら：初回 TKA 後の感染率は 0.46%

(MB Orthop vol.23 No.4 2010;39-45)

当院では、0.11%と低値であった。

○術後無菌性弛緩について

Webster DA ら：TKA 後無菌性弛緩は 0.5%と報告

(Clinical Orthopedics and Related Research,01 Mar 1985,(193):160-167)

Foran JR ら：脛骨コンポーネントの無菌性弛緩を 1.5%に認めたと報告

(J Arthroplasty 26:1445-1450.)

当院では、0.07%と発生は低値であった。

○人工関節周囲骨折について

Dennis DA ら：大腿骨顆上骨折 0.3～2.5%、脛骨骨折 0.4～1.7%

(Instr Course Lec.2001;50:379-389)

Ortiguera CJ ら：膝蓋骨骨折 0.05～21%

(J Bone Joint Surg Am.2002;84:532-540)

当院では、大腿骨顆上骨折 0.30%、脛骨骨折 0.03%、膝蓋骨骨折 0.26%と同様の結果を呈した。感染や大腿骨顆上骨折では、治療期間が初回 TKA 後より長期におよび、患者の満足度の低下が懸念される。患者に対して二期的追加手術のリスクの説明を行い、患者啓蒙が必要であると考えます。

『Limitation』

術者が同一ではない (3人の術者)。

機種を選択が異なる。

『まとめ』

初回 TKA 後、二期的追加手術を必要とした症例を調査した。

二期的追加手術を施行したのは 1.77%であった。

要因として感染によるもの 0.11%、loosening によるもの 0.07%であった。

